

# 松沢成文 神奈川県知事との対談

## － 福祉的就労の底上げと森づくり －

進和学園の営業窓口会社（株）研進は、「在宅就業支援団体」（福祉施設も対象）として、2008年4月1日付で厚生労働省に登録されました。神奈川県では登録第1号となります。以下は、（株）研進・進和学園より松沢成文 神奈川県知事を訪問し、その旨を報告申し上げた際の知事との対談内容を収録したものです。本制度の活用が期待される「いのちの森づくり」（進和学園の新プロジェクト）についても、知事より貴重なメッセージを賜りました。

- ・ 日 時 : 2008年5月19日（月） 14:35～14:55
- ・ 場 所 : 神奈川県庁 知事室

研進・学園：お陰さまで、この度、私共は「在宅就業支援団体」として登録されました。

松沢知事 : 2006年にできた厚労省の新しい制度ですね。神奈川県で登録第1号は素晴らしい。神奈川新聞の1面に載っていたのでびっくりしました。すごいな。進和学園やったなと思いました。

研進・学園：自宅や福祉施設で働いている障害者の方々に企業が仕事を発注した場合に、発注企業に対して障害者雇用納付金制度から助成金が支給される制度です。

松沢知事 : 障害者の就労に理解があって、仕事を発注する企業を応援する奨励策ですね。進和学園さんの場合は、ホンダさんになる訳ですね。

研進・学園：そうですね。ホンダさんからご発注頂いている仕事は、本田技研さんから研進、研進から進和学園という流れの形態になっています。福祉施設の窓口会社が登録されたというのは、全国でNO. 1のケースです。

松沢知事 : それは、良いモデルケースとなりますね。  
私は、神奈川から日本を変えて行きたいと思っています。常々「神奈川力」というのは、「先進力」プラス「協働力」だと言ってるんですよ。他の地域で尻込みするようなことも思い切って挑戦してみる。方向が出来たらみんなで協力する体制を作る、独りよがりでは成功しませんからね。  
進和学園の今回の取り組みもそうですね。初めてやったわけですから。神奈川県らしい素晴らしいモデルができましたね。

研進・学園：知事の「神奈川から日本を変える」というお考えを見習って、私達もスケールこそ小さいですが、色々発信をして行きたいと思います。特に、非雇用の形態で働いている障害者の皆さんの所得対策が課題です。  
勿論、「雇用」も大切ですが、雇用が叶わない多くの障害者の方々、「福祉的就労」と呼ばれていますが、こうした方々の工賃アップのために、この制度を活用して行きたいと思います。

松沢知事 : 授産施設や地域作業所で働く人の工賃は、月1万円程度ですよ。

研進・学園：その通りです。「在宅就業障害者支援制度」では、作業種類の制約はありませんので、これを活かして企業から仕事を発注頂くこと、福祉予算も限られていますから「労働(企業)」からコストをいかに調達出来るかがポイントだと思います。

松沢知事 : 民間企業もCSR（企業の社会的責任）ということが言われ、環境問題や障害者雇用への協力といった面で大分動きが変わって来ましたね。特例子会社（注）も、神奈川県は随分頑張っています。特例子会社をサポートするNPOもあるんですね。

（注）特例子会社制度：一定の要件を満たせば、子会社を親会社の事業所とみなし、

障害者の法定雇用率にカウントできる制度。

研進・学園：福祉からの取り組みは十分とは言えません。知的障害者を中心とする雇用型の福祉工場は、神奈川では横浜のダイア磯子さんと私共の2つしかありません。いきなり雇用型は難しいので、「福祉的就労」の底上げが重要となります。進和学園でも、ホンダ車部品の他、製パン・クッキー、しいたけ、陶芸、竹炭などの作業を通じて工賃アップに取り組んでいます。「いのちの森づくり」もその一環です。

松沢知事：「いのちの森づくり」のお話を聞いて、これも素晴らしいなと思ったんです。平成22年度に全国植樹祭を神奈川で開催します。全国で最後になってしまったんですが、実は、終戦直後、仙石原で天皇皇后両陛下をお迎えして記念植樹をやったんです。それが注目されて、毎年植樹をしようとして全国植樹祭が始まった訳です。神奈川がきっかけを作ったんですね。

研進・学園：全国植樹祭では、有難いことに県の環境農政部さんより、県下の障害者の方々から栽培した苗を2000本ほど優先発注して頂けるというお話を伺っています。

松沢知事：それは良い。今度の植樹祭では、緑を増やすための一過性のイベントではなく、多くの県民の皆さんに参加して頂いて、継続する取り組みにして行きたい。障害者の皆さんが「どんぐり」から育てた苗を植えさせて頂く。子供さん、小学生にも参加して頂く。苗作りから県民の皆さんに参加して頂く。障害をお持ちの方やお子さんが、愛情を込めて育てた手作りの苗というのが良いですね。

研進・学園：「どんぐり」から苗を育てるとするのは、情操面の充実という面でも有意義だと思っています。

松沢知事：植えた木を5年後、10年後に見に行くのも良いですね。木もどんどん大きくなって行くし、人間も一緒に成長しますからね。これも楽しみですね。

研進・学園：宮脇先生が指導されている森づくりもそういうことだと思います。「森づくり」は「人づくり」に繋がるということかと思っています。

松沢知事：今、県では「成長の森」という事業もやっているんですよ。子供さんが生まれたら県に寄付をして頂いて、その寄付金で買った苗を植えます。名前を記したプレートが貼ってあるんです。子供さんが5才、10才になったらその森へ来て、あの時植えた木がどうなったか、木と子供さんの成長を重ねて見て頂きたいですね。

研進・学園：「かながわ森林再生50年構想」について、昨年マニフェスト県民討論フォーラムで提言させて頂きましたが、広葉樹の植樹本数を増やして頂き有難く思っています。

松沢知事：林道の近くは林業のためにスギやヒノキを植えますが、県の自然環境保全センターで花粉が出ないスギやヒノキを開発しているんですよ。そうすれば、花粉症も防げる訳です。林道の近く以外は、広葉樹を植えて混交林にして行きます。経済林を自然林に戻して行くという運動で、広葉樹を増やして行きます。全国植樹祭では、皆さんの取り組みが天皇皇后両陛下に伝えられると良いですね。こういう発想で、障害者の方が苗を育てるプロジェクトをやっているということは、両陛下も喜ばれると思いますよ。

研進・学園：私達も、全国植樹祭は大変楽しみにしています。今年は、進和学園創立50周年を迎えます。これまで大変お世話になっていますが、今後とも県政のお立場から宜しくご支援ご指導をお願い致します。本日は、お忙しいところ時間を割いて頂き有難うございました。

以上